

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ゲーム+リアル」
 - 2) 「ブランド店よりパン材料専門店が好き」
 - 3) 「日本酒業界、市場復活の起爆剤」
 - 4) 「岡山県が発祥地、点字ブロック 43 年」
-

1) 「ゲーム+リアル」

携帯電話を使った無料ゲームでカンパチを釣れば自宅に本物の養殖カンパチ（半身、5 千円相当）が届く釣り大会を鹿児島県垂水市の県漁連の子会社が始めた。

「ブリの子」と間違われるカンパチの知名度アップが目的。桜島周辺など 6 カ所の漁場を選び、ミミスズ、イワシ、サバのエサで挑戦する。31 日まで 1 日約 15 人に当たる。

次の大会では協賛企業を募る。「来春全線開業する九州新幹線のチケットや特産の焼酎なども泳がせたい」と担当者。どんな「大物」が画面に回遊してくるか。

最近テレビCMなども頻繁に流れ、若者を中心に定着した感のある携帯ゲームだが、これをうまく利用したアイデアだと思う。スーパーなどでも販促の一環として使えそうだ。

例えば畑で野菜を収穫するゲームで野菜の割引券や実物のプレゼントがあったり、ニワトリに卵を産ませるゲームで産んだ数だけプレゼントなどあったりすれば面白いのではないかと思う。

2) 「ブランド店よりパン材料専門店が好き」

パンを作る人たちの間では知られた存在のパンと菓子の材料と道具の専門店「クオカ」は、初心者向けからプロが使う物まで幅広くそろう店として有名。強力粉だけでも 40 種類以上が並んでいる。

パンを手作りする人は 07 年時点で 99 年の約 1.5 倍に増加。ホームベーカリーの市場規模は、05 年以降、毎年 2 ケタのペースで成長を続けている。

ホームベーカリーが登場した 87 年当時も手作りパンブームは起きたが、すぐに終焉。それに対し現在はクオカのような店が出来、プロが使うような材料やレシピがネットで簡単に手に入るようになり、手作りパンの世界が飛躍的に広がった事が確かなトレンドとして定着している背景だ。

パンを手作りしたいという人が増えているのは、食の安全・安心志向や節約意識の高まりからとも言われている。

「うまく焼けると達成感があるし、職場にブランドバックを持って行くより自分で焼いたパンを持って行く方が、ずっと自慢出来る。」

「朝、部屋にパンの焼ける香りが漂うと幸せな気持ちになる。日々の暮らしをちゃんと大切にしている気がする。」

というような、パンを焼くという家事を通して精神的な充足感を得ている人も多い。また、パン作りの関連グッズ以外にも、おしゃれなエプロンやゴム手袋、洗剤も充実してきていて、家事をおしゃれに楽しむ志向が増えてきそうだ。

パン作りに限ったことではないが「コト」だけではなく、その「雰囲気」を楽しむという人が増えている。手作りをステイタスと感じる今の時代、商品や作り方だけでなく、雰囲気の販促も一緒にできればもっと手作りを楽しむ人が増えるのではないかな。

3) 「日本酒業界、市場復活の起爆剤」

深刻な消費低迷にあえぐ日本酒業界、復活ののろしはすでにあがっている。

ノンアルコールビールやハイボールのブームを受けた変わり種が次々に登場し、人気を集めている。

千葉県の酒蔵・寺田本家が3月に発売した「米（マイ）グルト」日本酒の製造過程で出来る純米もろみをノンアルコールの発酵飲料として商品化した物で、注文が殺到し、品切れが続く。

低迷するウィスキー市場復活の原動力となったハイボール。これに乗り、大手の黄桜は「日本酒ハイボール」を発売した。日本酒よりも低いアルコール度数で、さわやかな発泡感が売り。

また、酒造好適米の生産農家も生産農家も新販路を開拓。東京・銀座のイタリア料理店「Anastia」は酒造好適米「五百万石」を使ったりゾットを提供しており、人気メニューに育っている。

今は何にでも言われるが、「若者の〇〇離れ」の中にももちろん日本酒も入っている。しかし、これらのように加工したり料理として出されたりすれば、「レア感」を感じて試してみる若者も多いだろう。ハイボールの成功例を見て思うが、自主的ではないだけできっかけさえあれば以外と何でも受け入れるような気がする。

4) 「岡山県が発祥地、点字ブロック 43 年」

43年前に世界で初めて点字ブロックが設置されたのを記念して、発祥地である岡山市に2010年、記念モニュメントが完成した。モニュメントは同市中区の前尾島交差点に設置。記念塔や来歴を記した石碑など3点が並び、当時の点字ブロック3枚を埋め込んだ石碑は、視覚障害者の安全と自由を守ってきた歴史を伝えている。

点字ブロックは岡山市の実業家、故三宅精一さんが考案したもので、日本が世界で初めて設置した。視覚障害者が交差点で危ない目に遭うのを見たのがきっかけで、コンクリートブロックの表面に突起を並べて試作を繰り返し、1967年3月18日、県立岡山盲学校の生徒の通

学路にあたる原尾島交差点に点字ブロック230枚を敷設した。その後、旧国鉄大阪・我孫子町駅に設置したほか、東京都が採用し、一気に全国に広まった。

海外では各国それぞれの点字ブロックがあり、中には意味をなさないもの、杖では分かりづらい凹凸を使い分けいたりと残念なものも少なくはない。日本でよく見かける黄色い点字ブロックは、弱視者でも認識しやすいようにと、あらゆる工夫を繰り返してきたものだ。さらに発展するよう、曲がり道が分かりやすいカーブがかった点字ブロックの規格化など今後の発展も応援したい。